

令和6年度尾張旭市一般会計予算

討論要旨 片渕卓三議員

2024年度の当初予算案の一般会計の総額は、市長選の直後で骨格予算であった前年比から約29億円増え284億4,000万円であり、肉づけ後と比較しても10億円増で、過去最高を更新いたしました。

初めに、当初予算案では、特に防災に重点を置き、防災向上に向けた事業費を多く盛り込んだ予算案となっております。一連の防災関連予算については、能登半島地震以前から進めてきた喫緊の課題として災害備蓄品用の大型倉庫の新設、指定避難所として機能する3中学校の体育館の空調設備の整備では、夏の体育授業など熱中症対策に役に立てることとあります。

同じく、指定避難所となる公民館8か所のトイレの洋式化と空調設備改修など安心・安全で暮らしやすい魅力あふれるまちづくりを進めていくため、事業を拡大し、対応していくことを高く評価いたします。

また、带状疱疹ワクチン接種費用の助成制度、若年がん患者の在宅療養費の助成制度の開始、産後ケア充実として、産婦健診の助成回数の拡充、産後ケアサービスにアウトリーチ型を追加し、また、ヤングケアラー実態調査を実施、水泳授業民間プール活用校の拡充、給食費高騰分の公費負担継続として、保育園、小中学校給食材料費高騰分の引き続き支援等に取り組むなど、私たちの会派が推進し、要望してきた政策が多く実現をしていることを高く評価いたします。

これからも市税の確保は厳しいと思われませんが、今後も財源の創出のさらなる工夫を続けていただきたいと思います。

今3月議会では、当初予算案について代表質問、各分科会において熱心な質疑が行われたことは率直によかったと思います。質疑の中で個別の事業について反対する御意見も様々ありましたが、それらをもってこの予算案そのものに大きな影響があるとは言えません。

ただ、三郷駅周辺まちづくり事業に重点的な予算となっており、現在も資材高騰や人件費増等で総工費が上がるのが懸念をされます。総工費抑制と透明性を図りながら事業の推進をお願いしたいと思います。

最後に、物価高騰が市民にとって厳しい環境となっております。今後10年間の尾張旭市の未来像であります「幸せつむぐ 笑顔あふれる 尾張旭」を築くためには、安定な市政運営が必要であります。誰一人取り残されない尾張旭市、誰もが住み続けられる尾張旭市をつくるため、公明党尾張旭市議団として、令和6年度も市政発展のために全力で取り組むことを決意し、賛成討論といたします。